

公 開
資料 3

第 3 7 8 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 6 年 1 2 月 2 0 日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅲ 公開審議事項					
1. 委員会関係					
提案 1	(分野別委員会) (1)分科会委員の決定 (追加 4 件) (2)小委員会委員の決定 (追加 1 件)	(1)第一部長、第二部長、第三部長 (2)第三部長	4	分科会委員及び小委員会委員を決定するため。	第一部長、第二部長、第三部長 (1) (2)内規18条
提案 2	(課題別委員会) フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 (1)設置要綱の一部改正 (新規設置 1 件) (2)分科会委員の決定 (新規 1 件)	(1)フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長 (2)会長	5	分科会の設置に伴い、設置要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定するため。	三枝副会長 (1)会則27条 1 項 (2)内規18条
2. 協力学術研究団体関係					
提案 3	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	8	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本ロシア語教育学会 ②日本水泳・水中運動学会 ③日本MRS水素科学技術連携研究会 ※令和 6 年12月20日現在2, 185団体 (上記申請団体を含む)	三枝副会長 会則36条
3. 国際関係					
提案 4	令和 6 年度代表派遣について、実施計画の追加、変更及び派遣者を決定すること	会長	9	令和 6 年度代表派遣について、実施計画の追加、変更及び派遣者を決定するため。	日比谷副会長 国際交流事業の実施に関する内規19条 2 項、21、22条
4. シンポジウム等					
提案 5	公開シンポジウム 「人流ビッグデータがもたらす新しい未来像 (仮)」の開催について	地域研究委員会委員長	10	主催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会 日時：令和 7 年 3 月 1 日 (土) 13 : 00 ~ 17 : 00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	— 内規別表第 2

提案 6	公開シンポジウム 「高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	12	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同カーボンニュートラル都市分科会 日時：令和 7 年 3 月 1 日（土）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第二部、第三部承認	—	内規別表第 2
提案 7	公開シンポジウム 「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」の開催について	第二部長	15	主催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、公益社団法人日本農芸化学会 日時：令和 7 年 3 月 5 日（水）9：00～11：30 場所：札幌コンベンションセンター（札幌市白石区） ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案 8	公開シンポジウム 「日本在来馬は、どこから来て、どこへ行くのか？」の開催について	食料科学委員会委員長	17	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会 日時：令和 7 年 3 月 15 日（金）13：10～15：05 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案 9	公開シンポジウム 「教育DXのためのデータ利活用について考える」の開催について	情報学委員会委員長、心理学・教育学委員会委員長	19	主催：日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会 日時：令和 7 年 3 月 19 日（水）13：00～17：30 場所：京都大学学術情報メディアセンター南館 2 階 201 号室（京都市左京区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案10	公開シンポジウム 「未来を創る主権者教育」の開催について	政治学委員会委員長	22	主催：日本学術会議政治学委員会 日時：令和 7 年 3 月 19 日（水）14：00～16：30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案11	公開シンポジウム 「人間にとって学習とは何か？」の開催について	統合生物学委員会委員長 基礎生物学委員会委員長	24	主催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会 日時：令和 7 年 3 月 20 日（木・祝）13：00～16：30 場所：東京大学理学部 2 号館講堂（東京都文京区）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案12	「日本学術会議in石川」の開催について	地方学術会議委員会委員長	26	主催：日本学術会議 共催：金沢大学 日時：令和 7 年 8 月 2 日（土）10：30～17：30 場所：ホテル日航金沢 3 階孔雀の間（石川県金沢市本町 2 丁目 15 番 1 号）、金沢市アートホール（石川県金沢市本町 2 丁目 15 番 1 号）（ハイブリッド開催） ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第 2

5. 後援

提案13	国内会議の後援をすること	会長	29	以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・日本薬系学会連合第2回設立記念フォーラム ・2024年度全国公正研究推進会議	—	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	---	-----------------

6. その他

件名		資料(頁)
参考1	日本学術会議外部評価有識者の委嘱について（報告）	30
参考2	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は1月23日（木）14:30～に開催予定。	31

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（追加 4 件）

（心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山口 真美	中央大学文学部教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：20 名】

（地球惑星科学委員会 SCOR 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
植松 光夫	埼玉県環境科学国際センター総長／東京大学 名誉教授	連携会員

【設置：第 351 回幹事会（令和 5 年 8 月 29 日）、追加決定後の委員数：20 名】

（情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山田 礼子	同志社大学社会学部教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：19 名】

（電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
井上 弘士	九州大学大学院システム情報科学研究院教授	連携会員
西山 彰	東京科学大学研究員	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：27 名】

○小委員会委員の決定（追加 1 件）

（機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC 分科会自動制御の多分野応用小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
浅間 一	東京大学国際高等研究所東京カレッジ特任教授	連携会員

【設置：第 364 回幹事会（令和 6 年 3 月 25 日）、追加決定後の委員数：18 名】

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会設置要綱（令和 6 年 2 月 29 日日本学術会議第 363 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(略)				(同左)			
(分科会)				(分科会)			
第 4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。				第 4 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。			
分科会	調査審議事項	構成	設置期限	分科会	調査審議事項	構成	設置期限
(略)				(同左)			
SDGs の 進 捗 評 価 分 科 会	<u>1. 日本の VNR</u> <u>2. SDGs の達成状況の 評価</u> <u>3. SDGs 実施の科学的 評価 に係る審議に関するこ と</u>	<u>30 名以内 の会員又 は連携会 員</u>	<u>設置期間：令 和 6 年 12 月 20 日～令和 8 年 9 月 30 日</u>	(新規設置)			
(略)				(略)			

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会分科会の設置について

分科会等名：SDGs の進捗評価分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
2	委員の構成	30名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	フューチャー・アースはグローバルサステナビリティ推進のための国際的取組であり、国連における持続可能な開発目標（SDGs）誕生以来、SDGs 達成への貢献を一大課題としてきた。2025年には、SDGs の達成状況について、日本が自主的国家レビュー（VNR）を行うことから、このプロセスに学術的な貢献を行う。
4	審議事項	1. 日本の VNR 2. SDGs の達成状況の評価 3. SDGs 実施の科学的評価 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年12月20日～令和8年9月30日
6	備考	

【課題別委員会】

○分科会委員の決定（新規 1 件）

（フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 SDGs の進捗評価分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
北島 薫	京都大学大学院農学研究科教授	第二部会員
春日 文子	長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科／プラネタリーヘルス学環教授	連携会員
蟹江 憲史	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科・教授	連携会員
亀山 康子	東京大学大学院新領域創成科学研究科附属サステイナブル社会デザインセンター教授	連携会員
谷口 真人	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授	連携会員
福士 謙介	東京大学未来ビジョン研究センター教授／センター長	連携会員
山内 太郎	北海道大学大学院保健科学研究院健康科学分野教授／環境健康科学研究教育センターセンター長	連携会員
山下 潤	九州大学大学院比較社会文化研究院教授	連携会員

【設置予定：第 378 回幹事会（令和 6 年 12 月 20 日）、決定後の委員数：8 名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	日本ロシア語教育学会 (https://jasrle.org/)	本団体は、ロシア語教育に関わる諸問題を幅広い観点から理論的かつ実践的に研究し、その成果を広く社会に還元し、わが国におけるロシア語教育の発展に寄与することを目的とするものである。
2	日本水泳・水中運動学会 (https://swex.jp/)	本団体は、水泳・水中運動に関わる知見を収集し、広く国民に伝達すること、公益財団法人日本水泳連盟科学委員会との連携組織とし、その活動を支援することを目的とするものである。
3	日本 MRS 水素科学技術連携研究会 (https://hydrogenomics-alliance.jp/)	本団体は、水素科学並びに関連分野との有機的連携により、水素科学に関する学術、技術の進展及び教育に寄与することを目的とするものである。

令和6年度代表派遣実施計画の追加、変更及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和6年度代表派遣実施計画の変更等を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	サイエンス 20 (S20) 2025 発足会合	令和7年 2月25日 ～ 2月27日	プレトリア (南アフリカ)	日比谷 潤子 第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会	・代表派遣実施計画の追加 ・派遣者の決定 ※現地出席予定
2	宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 総会プログラ ム委員会及び科学ア ドバイザリー委員会等	令和7年 3月中旬 ↓ 令和7年 3月16日 ～ 3月19日	パリ (フランス) ↓ ローマ (イタリア)	矢野 創 (※1) — (宇宙航空研究開発機構宇宙 科学研究所助教)	地球惑星科学委員 会地球惑星科学国 際連携分科会	・会期日程の決定 ・開催地の変更 ※当初予定していた会議会 場が改装工事を行うことと なったため。 ・派遣者の決定 ※実施計画については第 363 回幹事会 (令和6年2 月29日) にて承認済み。

(注)

(※1) 当該派遣候補者は、連携会員 (特任) に承認されることを条件とする。

公開シンポジウム
「人流ビッグデータがもたらす新しい未来像（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会
2. 共 催：一般社団法人地理情報システム学会、一般社団法人人文地理学会
3. 後 援：地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会ほか
4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 1 日（土）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

現代社会において、位置情報をリアルタイムで取得して記録・利用するモバイルデバイスの普及により、人の動きの詳細を把握する人流ビッグデータの利用可能性は急速に拡大しています。この新しい地理空間情報は、都市計画、交通管理、環境モニタリング、さらには防災や地域経済の発展など、多岐にわたる分野で革新的な変化をもたらしています。一方で、この膨大な情報を効果的かつ倫理的に活用するためには、適切な分析技術、プライバシー保護、政策的な枠組みなど、多くの課題が存在します。

本シンポジウムは、学術研究者、産業界の専門家、行政機関の担当者など、多様なバックグラウンドを持つ参加者が一堂に会し、人流ビッグデータの持つ可能性と課題について議論する場を提供することを目的としています。

本シンポジウムを通じて、人流ビッグデータがもたらす未来像を共有し、その可能性を最大限に引き出すための新たな知見や連携の機会を創出したいと考えています。皆様の積極的なご参加と貴重なご意見をお待ちしております。

9. 次 第：

総合司会：伊藤 香織（日本学術会議連携会員／東京理科大学創域理工学部建築学科教授）

13:00～13:15 開会挨拶・趣旨説明

矢野 桂司（日本学術会議第一部会員／立命館大学文学部教授／一般社団法人人文地理学会会長）

13：15～13：35 講演1「人流データの作成とプライバシー保護（仮）」
 鈴木 俊博（株式会社ドコモ・インサイトマーケティングエリアマーケティング部長）
 13：35～13：55 講演2「人流データの応用 I → COVID-19 や災害（仮）」
 永田 彰平（東北大学災害科学国際研究所助教）
 13：55～14：15 講演3「人流データの応用 II → 海外での人流データの活用など（仮）」
 新井 亜弓（麗澤大学工学部工学科情報システム工学専攻准教授）
 14：15～14：30 休憩
 14：30～14：50 講演4「パーソントリップ調査の課題と未来：調査の標準化・オープン化と人流ビッグデータとの融合」
 石井 良治（一般財団法人計量計画研究所研究本部データサイエンス室 IT マネジャー）
 14：50～15：10 講演5「RESAS における人流移動の活用（仮）」
 松原 宏（福井県立大学地域経済研究所教授）
 15：10～15：30 講演6「擬似人流プロジェクト（仮）」
 関本 義秀（東京大学空間情報科学研究センター長／教授）
 15：30～15：45 休憩
 15：45～16：45 パネル討論・質疑応答
 パネリスト：上記の講演者
 コーディネーター：中谷 友樹（日本学術会議連携会員／東北大学大学院環境科学研究科教授／一般社団法人地理情報システム学会副会長）
 16：45～16：55 全体総括
山本 佳世子（日本学術会議連携会員／電気通信大学大学院情報理工学研究科教授／一般社団法人地理情報システム学会会長）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同カーボンニュートラル都市分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人日本応用老年学会、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人日本老年医学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、日本介護福祉学会、日本保健福祉学会（一般社団法人日本応用老年学会を除き、全て調整中）
4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 1 日（土）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

超高齢化が進む我が国においては、誰もが取り残されず、障害を有しても社会で安心して生き生きと生活・活動できるよう、生活機能を包括的に捉える視点と環境因子への働きかけやデジタルトランスフォーメーション（DX）が必須である。

本シンポジウムでは、高齢者をとり巻く環境を多元的に、とくに data-driven で科学的に捉え、最新の科学的知見による住環境（都市環境、住宅内環境）や交通・就労環境の構築による「エイジフレンドリーシティ（Age-friendly cities and communities）」の実現に向け、建築工学、健康科学、環境学、情報学等による学際領域が研究成果を融合させ、産業界と共にイノベーションを起こすための提言について話し合う。

9. 次 第：

13:00 開会の挨拶

磯 博康（日本学術会議副会長／国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長）

◇総合司会（第1部司会）

秋下 雅弘（日本学術会議第二部会員／地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターセンター長）

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター理事長）

話題提供

13:05 松野 秀生（国土交通省住宅局住宅生産課長）

13:20 （確認中）（厚生労働省老健局）

第1セッション

13:40 『エイジ・フレンドリー・コミュニティ』

中村 桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科国際保健医療事業開発学分野教授）

14:00 『データからみる高齢者の健康・生活に関する課題（案）』

長澤 夏子（日本学術会議連携会員／お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系教授／東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻教授）

休憩（10分）（14:20～14:30）

第2セッション

◇司会

住居 広士（日本学術会議連携会員／県立広島大学大学院特任教授）

森山 美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

14:30 『住居環境が高齢者の健康に与える影響と政策における不足点（案）』

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター理事長）

14:50 『ビッグデータの活用：生活・居住環境等のデータの政策活用（案）』

金子 周一（日本学術会議連携会員／金沢大学大学院医薬保健学総合研究科特任教授）

15:10 『データを活用して地域住民の生活上の安全と安心を守る/DX化の推進（案）』

山川 みやえ（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護科学分野老年看護学准教授）

総合討論

15:30 総合討論

15:50 指定発言

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構
長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

16:00 閉会の挨拶

荒井 秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研
究センター理事長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「農芸化学分野におけるジェンダード・イノベーションへの展望」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、
公益社団法人日本農芸化学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 5 日（水）9：00 ～ 11：30
5. 場 所：札幌コンベンションセンター
（札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1－1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

ジェンダード・イノベーションは、スタンフォード大学のロンダ・シービンガー教授が平成 17（2005）年に提唱した「研究開発において性差に着目することで、より良い技術革新をめざす」というコンセプトである。ジェンダード・イノベーションを取り込んだ研究及び開発は、科学、医療、工学・テクノロジー等に革新的な変革をもたらすとともに、科学分野におけるジェンダー平等実現に向けた最新にして最強のアプローチであると考えられており、例えば、EU の超大型研究・イノベーション支援プログラムである Horizon Europe では、このコンセプトを取り入れて「Sex and Gender 分析」が義務化されている。すなわち、ジェンダード・イノベーションの研究・技術開発への導入は既に世界的な潮流となっている。ジェンダード・イノベーションの対象分野は多岐にわたり、農芸化学分野で行われている動物や幹細胞を用いた食品や栄養などの研究もその中の重要課題であるが、日本ではその導入が遅れている。

本シンポジウムは、ジェンダード・イノベーションの重要性を認識し、農芸化学分野におけるその大いなる可能性を展望していただくことを目的として企画した。具体的には、ジェンダード・イノベーションとその重要性及び国際的な研究・技術開発の情勢を紹介する講演と、農芸化学分野でジェンダード・イノベーションのコンセプトを取り込んだ最新研究の講演を予定している。

9. 次 第：

9:00- 9:20 裏出 令子（京都大学複合原子力科学研究所特任教授）

『ジェンダード・イノベーション』概念とその意義および今後の影響」

座長：芦田 均（武庫川女子大学食物栄養科学部食物栄養学科教授）

9:20- 9:50 竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／明治大学農学部農芸化学学科教授）

「栄養応答における性差と内分泌因子の役割：脂溶性ビタミンおよび
タンパク質栄養の観点から」

座長：仲川 清隆（東北大学大学院農学研究科教授）

9:50-10:30 東村 博子（名古屋大学大学院生命農学研究科特任教授）

「生殖を制御する脳内メカニズムとその性差」

座長：竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／明治大学農学部農芸化学学科教
授）

10:30-11:00 大畑 素子（日本大学生物資源科学部食品開発学科准教授）

「匂い物質に対する嗜好と嗅覚刺激により誘導される生理応答の性差」

座長：林 由佳子（京都大学大学院農学研究科准教授）

11:00-11:30 熊谷 日登美（日本学術会議連携会員／日本大学生物資源科学部食品開発
学科教授）

「米アルブミンによる食後血糖値上昇抑制作用に対する性差の影響」

座長：前多 隼人（弘前大学農学生命科学部食料資源学科准教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「日本在来馬は、どこから来て、どこへ行くのか？」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会

2. 共 催：日本ウマ科学会

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 15 日（金）13：10 ～ 15：05

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可

一般参加の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

日本在来馬とは、古くから日本の各地で飼養されてきた日本固有の馬のことです。日本固有の馬と言っても、日本に起源があるのではなく、4 世紀末にモンゴルから日本に伝わってきた馬たちです。在来馬は、7 世紀以降、人や物資を運ぶ重要な交通手段となり、その後は、戦に用いられる軍馬、田畑を耕す農耕馬、はたまた神様へ奉納する御神馬など、私たち日本人の生活や文化にしっかり根付いた存在となってきたのです。しかし、文明開化の明治以降は、大きな馬格を持つ西洋の馬が好まれるようになり、在来馬の多くは外国から来た馬と交配され改良が行われてきました。結果、現在、日本在来馬として現存しているのはわずか 8 品種だけになってしまいました。今回のシンポジウムでは、日本人の生活や文化を支えてきた在来馬たちにスポットを当て、在来馬たちの起源や、在来馬たちを取り巻く現状、そして、未来にも在来馬たちが絶えることなく存続していくために、私たちが為すべきことなどを、多くの方と一緒に考える機会になることを期待しています。

9. 次 第：

13:10-13:15 開会の挨拶

笠嶋 快周（日本学術会議連携会員／JRA 日本中央競馬会競走馬総合研究所技術参事
役／岩手大学客員教授）

13：15-13：20 本シンポジウム企画趣旨の説明

(座長) 戸崎 晃明 (公益財団法人競走馬理化学研究所遺伝子分析課長／岐阜大学客員獣医学系教授)

13:20-13:40 「1. 日本在来馬とは？」

近藤 誠司 (北海道大学名誉教授／北海道大学総合博物館資料部研究員)

13:40-13:55 「2. 日本在来馬はどこから来たのか？」

戸崎 晃明 (公益財団法人競走馬理化学研究所遺伝子分析課長／岐阜大学客員獣医学系教授)

13:55-14:10 「3. 北海道和種馬の保全と利活用について」

天野 朋子 (酪農学園大学循環農学類教授)

14:10-14:25 「4. 対州馬の保全と利活用について」

吉原 知子 (鹿児島大学大学院共同獣医学研究科博士課程／元対馬市島おこし協働隊対州馬保全・活用担当)

14:25-14:40 「5. 飼養形態の相違から見る在来馬 (木曾馬と御崎馬)」

高須 正規 (岐阜大学大学院高等研究院准教授)

14:40-15:00 「6. 総合討論 在来馬のための明るい将来とは？」

(モデレーター)

笠嶋 快周 (日本学術会議連携会員／JRA 日本中央競馬会競走馬総合研究所技術参事役、岩手大学客員教授)

戸崎 晃明 (公益財団法人競走馬理化学研究所遺伝子分析課長／岐阜大学客員獣医学系教授)

(パネリスト)

近藤 誠司 (北海道大学名誉教授／北海道大学総合博物館資料部研究員)

天野 朋子 (酪農学園大学循環農学類教授)

吉原 知子 (鹿児島大学大学院博士課程、元対馬市対州馬保全・活用担当)

高須 正規 (岐阜大学大学院高等研究院准教授)

15:00-15:05 閉会の挨拶

木村 直子 (日本学術会議第二部会員／山形大学大学院農学研究科動物機能調節学分野教授／岩手大学大学院連合農学研究科教授／日本畜産学アカデミー幹事)

10. 関係する部会の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「教育 DX のためのデータ利活用について考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 19 日（水）13:00 ～ 17:30
5. 場 所：京都大学学術情報メディアセンター南館 2 階 2 0 1 号室（京都市左京区吉田本町）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会では、「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言—エビデンスに基づく教育に向けて—」を令和 2（2020）年 9 月 30 日に公表した。本シンポジウムでは、教育データ利活用（ラーニングアナリティクス）に関連する政府関係者並びに研究者をお招きして、新型コロナウイルスや GIGA スクール構想、AI 技術など、提言公表後の社会の変化に伴い、進展したこと、そうではないこと、さらに注意して進めることなど、教育データの利活用における課題や今後の方向性について議論する。

9. 次 第：

13:00 開会

司会：久富 望（京都大学大学院教育学研究科助教）

趣旨説明 「教育データの利活用に関する提言と今後の展望について」

緒方 広明（日本学術会議連携会員／日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会委員長／京都大学学術情報メディアセンター教授）

基調講演

13:30 「教育データ利活用による教育 DX に関する政策について」

木村 敬子（文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当）／教育 DX 推進室長）

14:00 「国研教育データサイエンスセンターの取り組みと今後の方向性」

大野 彰子（国立教育政策研究所教育データサイエンスセンター長（併）国際研究・協力部長）

14:30 「海外における ELSI と教育データ利活用の動向」

岸本 充生（日本学術会議連携会員／大阪大学データビリティフロンティア機構教授）

15:00 休憩

15:15 研究事例紹介

「特別支援教育におけるデータ活用」

酒井 啓至（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育企画官）

「教育委員会におけるデータ活用」

戸ヶ崎 勤（埼玉県戸田市教育委員会教育長）

「高等教育におけるデータ活用」

島田 敬士（九州大学大学院システム情報科学研究院教授）

「初等中等教育におけるデータ活用」

堀越 泉（京都大学学術情報メディアセンター助教）

16:35 休憩

16:50 パネル討論「教育データの利活用の将来について考える」

（司会）久富 望（京都大学大学院教育学研究科助教）

（パネリスト）

堀田 龍也（日本学術会議連携会員／東京学芸大学教職大学院教授）

前田 香織（日本学術会議連携会員／広島市立大学最高デジタル責任者／情報処理センター特任教授）

美馬 のゆり（日本学術会議第一部会員／公立はこだて未来大学システム情報科学部教授）

美濃 導彦（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所情報統合本部ゲーデ
ィアンロボットプロジェクトプロジェクトリーダー）

17:30 閉会

美馬 のゆり(日本学術会議第一部会員／公立はこだて未来大学システム情報科学部教授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「未来を創る主権者教育」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 19 日（水）14：00 ～ 16：30

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

選挙権年齢の満 18 歳以上への引き下げを契機として、民主主義と地域社会の未来を創る次世代育成の場として、「主権者教育」が注目されている。アカデミアでの議論・教育現場での実践・地域社会での取り組みについて、多様な主体で情報を共有し、議論する。

9. 次第：

14：00 司会・開会挨拶

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院法学研究科教授）

14：05 報告「（仮）主権者教育に関する理論と実践」

小玉 重夫（日本学術会議連携会員／白梅学園大学・白梅学園短期大学学長／教授／東京大学客員教授）

14：30 討論・質疑

早川 誠（日本学術会議第一部会員／立正大学法学部法学科教授）

14：50 報告「破いてみる、叩いてみる—体験的主権者教育授業の実践例—」

西川 伸一（日本学術会議連携会員／明治大学政治経済学部教授）

15：15 討論・質疑

中谷 美穂（日本学術会議連携会員／明治学院大学法学部政治学科教授）

15：35 報告「（仮）地方自治体における主権者教育の取り組み」

松崎 亮太（鳥取県選挙管理委員会事務局長）

16：00 討論・質疑

城山 英明（日本学術会議第一部会員／東京大学大学院法学政治学研究科教授）
16：20 閉会挨拶
谷口 尚子（日本学術会議第一部会員／慶應義塾大学法学部政治学科教授）

16：30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「人間にとって学習とは何か？」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人日本人類学会など（予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 20 日（木・祝）13：00 ～ 16：30
5. 場 所：東京大学理学部 2 号館講堂（東京都文京区本郷 7-3-1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

個人の学習行動と、それを支える社会の教育活動は、現代を生き抜くために不可欠な基盤要素である。「学習」は、個人が社会生活に必要な知識やスキルを習得する行為である一方、それらが発揮される社会の維持には、構成員が文化慣習や礼儀などを共有することが欠かせない。しかし、こうした人間の学習・教育行為にはどのような特質や多様性があるのか、また人類進化の過程で私たちがいつからどのように学習・教育行為を強化してきたのかについては、十分に語られる機会が少ないのが現状である。

本シンポジウムでは、人類学の多様な視点（霊長類、生態、成長、進化、歴史、文化、地域等）からこれらの課題を多角的に考察し、人間にとっての学習行為の本質について議論する。さらに、得られた知見を現代の教育現場にどのように活用できるか、その道筋を模索する機会とする。

9. 次 第：

13:00 開会挨拶

村山 美穂（日本学術会議第二部会員／京都大学野生動物研究センター教授）

第 1 セッション「人間にとって学習とは何か？」

◇司会 松本 晶子（日本学術会議連携会員／琉球大学国際地域創造学部教授）

13:10 『文化・歴史的発達の視点から：遊びと教育をつなぐ社会的基盤』

高田 明（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

13:30 『霊長類学の視点から：同調・伝染から模倣・協力へ至る社会学習の生物学的基盤』

香田 啓貴（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

13:50 『成長学の視点から：カラダ・アタマ・ココロのせめぎあい』

山内 太郎（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院保健科学研究院健康科学分野教授）

休憩（10分）（14：10～14：20）

14:20 『形態学の視点から：ヒトの脳化と学習の起源と進化』

荻原 直道（東京大学大学院理学系研究科教授）

14:40 『行動進化の視点から：社会学習の起源と帰結』

井原 泰雄（東京大学大学院理学系研究科准教授）

15:00 『人類史の視点から：文明と学習』

松本 直子（日本学術会議第一部会員／岡山大学文明動態学研究所教授）

休憩（10分）（15：20～15：30）

総合討論

◇司会 海部 陽介（日本学術会議連携会員／東京大学総合研究博物館教授）

15:30 『教育現場より：自律的に学ぶ子どもを育てる～自分らしい学びの創造～』

西田 淳（奈良女子大学附属小学校副校長）

15:45 総合討論

16:25 閉会挨拶

宮路 淳子（日本学術会議連携会員／奈良女子大学大学院人文科学系教授）

16:30 終了

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

「日本学術会議 in 石川」の開催について

1. 主 催 日本学術会議
2. 共 催 金沢大学
3. 後 援 石川県、北陸先端科学技術大学院大学
4. テーマ 大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して～半島地域からの問題提起（仮題）
5. 日 時 令和7年8月2日（土）10：30 ～ 17：30
6. 場 所 第1部 ホテル日航金沢3階孔雀の間（石川県金沢市本町2丁目15番1号）
第2部 金沢市アートホール（石川県金沢市本町2丁目15番1号）
（ハイブリッド開催）

7. 会議の趣旨

令和6年1月に発生した能登半島地震は、“半島”という地域社会に甚大な被害をもたらしました。この大災害を通して、地域の脆弱性や課題が浮き彫りとなり、今後の復興と持続可能な社会の構築に向けた新たな視点が求められています。本会議は、災害からの復興過程で明らかになった課題を共有し、これまでの取り組みを検証し、今後必要なことを探ることを目的としています。

学術講演会前半では、震災後立ち上がった金沢大学における能登里山里海未来創造センターや北陸先端科学技術大学院大学での取り組み及び石川県による創造復興プランについてそれぞれ紹介していただきます。人口減少問題、地域経済の復興、医療支援などさまざまな問題への対策が取り組まれてきました。また、日本学術会議の取り組みや東日本大震災から15年近く経過してきており、そのような長期の震災後の経験も講演していただき、長期視点に立った観点からも考える契機にしたいと思います。

さらに、学術講演会後半には、農業、漁業、観光業、及び教育の各側面で実際に震災復興にかかわってきた若手を交えたパネルディスカッションを行います。これにより災害後の持続可能な社会の実現に向けて、多様な側面から討論したいと思います。

【第1部】地域課題に関する日本学術会議と地域のリーダー等と意見交換会 10:30～12:30

（テーマ）

過去の震災における防災・復興対策等を踏まえた災害後の持続可能な社会の実現（参加者）

日本学術会議メンバー（会長、副会長、防災減災学術連携委員会メンバーほか関連する会員・連携会員）、金沢大学及び北陸先端科学技術大学院大学の代表、県の代表など地域リーダー、東日本大震災における災害対策に携わった有識者、学術講演会での話題提供者 等

(プログラム)

10:30～12:30

○開会挨拶

光石 衛（日本学術会議会長） ほか

○日本学術会議における防災減災に関わる活動報告

竹内 徹（日本学術会議第三部会員・防災減災学術連携委員会委員長、東京科学大学環境・社会理工学院教授）

○過去の震災における活動報告（教訓等）

東日本大震災における災害対策に携わった有識者

○地域からの話題提供

午後の学術講演会の講演者、地域リーダーなどからの意見や話題提供

○意見交換

○閉会挨拶

三枝 信子（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長）

【第2部】学術講演会 13:30 ～ 17:30（ハイブリッド開催）

(テーマ)

大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して～半島地域からの問題提起
(仮題)

(プログラム)

総合司会：松井 三枝（金沢大学国際基幹教育院教授）

○開会挨拶（各5分程度）13:30～13:40

光石 衛（日本学術会議会長）

和田 隆志（金沢大学学長）

石川県知事（予定）

○趣旨説明（10分程度）13:40～13:50

福森 義宏（金沢大学名誉教授）

I. 学術講演（順序及び講演者は調整中。演題は仮題） 13:50～15:45

司会：中村 慎一（金沢大学理事/副学長）

1. 能登里山里海未来創造センターでの取り組み（金沢大学での取り組み） 13:50～14:10

谷内江昭宏（金沢大学理事/副学長、能登里山里海未来創造センター長）

2. 石川県における取り組み（石川県創造復興プランの中から持続的社会に関するテーマ） 14:10～14:30

石川県関係者（県の復興推進部長/企画振興部長）

3. JAIST における能登半島震災復興支援の取り組み 14:30～14:50

寺野 稔（北陸先端科学技術大学院大学学長）

4. 能登半島地震・豪雨からの復興の課題と東日本大震災からの示唆 14:50～15:10

姥浦 道生（東北大学災害科学国際研究所教授）

5. 日本学術会議における活動報告と提言 15:10～15:30

久田 嘉章（日本学術会議連携会員・防災減災学術連携委員会委員、工学院大学建築学部まちづくり学科教授）

総合討論 15:30～15:45

休憩（15 分程度）

II. パネルディスカッション 16:00～17:30

能登未来を担う若手による能登復興への提言

モデレータ：佐無田 光（日本学術会議連携会員、金沢大学融合研究域教授）

パネリスト：農業、漁業、観光業、教育等（暫定）の若手人材を中心に
（全体のジェンダーバランスも考慮し4名程度を予定）

話題提供者 1 10 分

話題提供者 2 10 分

話題提供者 3 10 分

話題提供者 4 10 分

討論 45 分

まとめ 5 分

○閉会挨拶（5 分程度） 17:30～17:35

高田 広章（日本学術会議第三部会員・中部地区会議代表幹事、名古屋大学未来社会創造機構教授）

（下線の講演者等は、日本学術会議の会員・連携会員）

○国内会議の後援（2件）

以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 日本薬系学会連合第2回設立記念フォーラム

主催：一般社団法人日本薬系学会連合

期間：令和7年3月20日（木）

場所：日本薬学会長井記念館長井記念ホール（オンライン併用）

参加予定者数：約300名（現地：約100名、オンライン約200名）

申請者：日本薬系学会連合設立記念フォーラム

会長 高倉 喜信

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

2. 2024年度全国公正研究推進会議

主催：一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）

期間：令和7年2月12日（水）

場所：東京大学 安田講堂、構内講義室等

参加予定者数：約350名

申請者：一般財団法人公正研究推進協会

理事長 永井 良三

審議付託先：科学者委員会

審議付託結果：科学者委員会承認

第 26 期日本学術会議外部評価有識者

あおやま 青山	とうじろう 藤詞郎	先生	元慶應義塾大学理工学部教授・理工学部長・理工学研究 科委員長 元学校法人慶應義塾常任理事 慶應義塾大学名誉教授 一般財団法人慶応工学会理事長
いわなが 岩永	まさや 雅也	先生	放送大学長
おさ か べ 長 我部	のぶゆき 信行	先生	株式会社日立ハイテクコアテクノロジー&ソリューシ ョン事業統括本部エグゼクティブアドバイザー
こくど 國土	のりひろ 典 宏	先生	国立研究開発法人国立国際医療研究センター理事長
に わ 丹羽	み な え 美 苗	先生	アラバマ大学バーミングハム校医学部精神医学部門・ 准教授
もとむら 元村	ゆ き こ 有希子	先生	同志社大学生命医科学部特別客員教授 科学ジャーナリスト

○今後の予定

●幹事会

第 3 7 9 回幹事会	令和 7 年 1 月 2 3 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 8 0 回幹事会	令和 7 年 2 月 2 7 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 8 1 回幹事会	令和 7 年 3 月 3 1 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 8 2 回幹事会	第 1 9 3 回総会期間中に開催予定	
第 3 8 3 回幹事会	令和 7 年 5 月 3 0 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 8 4 回幹事会	令和 7 年 6 月 3 0 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 8 5 回幹事会	令和 7 年 7 月 2 8 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 8 6 回幹事会	令和 7 年 8 月 2 9 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 8 7 回幹事会	令和 7 年 9 月 2 6 日（金）	1 4：3 0 から

●総会

第 1 9 3 回総会	令和 6 年 1 2 月 2 2 日（日）
第 1 9 4 回総会	令和 7 年 4 月 1 4 日（月）～1 6 日（水）